

F 6 既製衣料に関する中学生の意識について (第2報)

—既製衣料品の購入動向について—

日本大短大 大村知子 市立沼津2中 ○稲葉和子

目的 わか国の既製衣料の利用範囲や利用量は、拡大しており、中学生における衣生活の既製衣料化は著しい。そこで、消費者として正しい知識を得、また将来の衣生活の経営者としての男女中学生の望ましい在り方を学習する為の参考資料を得ることを目的として、中学生の既製衣料品の購入動向に関する調査を行ない検討を試みた。

方法 調査は、第1報と同様、沼津市内の2つの公立中学校に在籍する男子596名・女子532名を対象として、1979年10月～1980年1月にアンケート形式によって実施した。その中から、中学生が既製衣料品を購入する際の方法や選択の実態、既製衣料に関する意識について検討し、考察を試みた。

結果 中学生が日常使用する頻度が高いと思われるTシャツ・ズボン・くつ下など18種をあけて、それらの衣料品を購入する際の実態は、1年生では、男女共、品目にかかわらず、家族と一緒に買い求めるケースが最も多いが、学年が進むにつれ、男子では、家族にまかせてしまう例が増す一方、自分自身単独または友人と一緒に購入する割合も多くなる傾向がみられた。自分で判断し購入する品目と家族と相談する品目には、男女では異なる傾向を示した。

既製衣料品を選ぶ時、寸法上基準にする部位は、体幹上部では、背肩幅、体幹下部では胸囲または腰囲を合わせていることがわかった。次に現在青少年の日常着として広く着用されているジーンズは、中学生においても、男女共に、大半の生徒が着用経験をおっていた。その購入時の様相についても明らかになり、中学生の既製衣料品の購入動向を把握するための、いくつかの知見を得た。